

国連WFP協会活動報告書2012

2012年1月～2012年12月

Japan Association for the World Food Programme
Annual Report 2012 | January 2012 ~ December 2012

© WFP / Abeer Etefa



World Food Programme

CONTENTS

目次

- 02 ご挨拶
- 03 会計報告
- 05 ご寄付の使途レポート
- 11 企業・団体の皆様からのご支援
- 13 支援を広げるための取り組み

国連WFPとは

国連WFPは、飢餓と貧困の撲滅を使命に活動する国連の食糧支援機関です。自然災害や紛争の被災者、妊婦や授乳中の母親、栄養不良の子ども、遺児、病人、老人等最も貧しい暮らしを余儀なくされている人を対象に、毎年平均70カ国以上で9,000万人以上に食糧支援を行っています。国連WFPの活動資金は、各国政府からの任意拠出金と民間企業や団体、個人からの寄付でまかなわれています。

国連WFPは、国連機関であるWFP 国連世界食糧計画と、それを支援する認定NPO法人である国連WFP協会という2つの団体の総称です。国連WFP協会は、募金活動、企業・団体との協力関係の推進、および広報活動を実施しています。国連WFP協会は、1999年に設立され、2005年に「認定NPO法人」として国税庁の認定を受けており、国連WFPへの寄付金は、税制上の優遇措置が受けられます。

PHOTOGRAPH

2012年にサヘル地域を襲った大干ばつの被害を最も受けた国の一つ、ニジェール。

©WFP/Rein Skallerud

ご挨拶

2012年、国連WFPは激しい戦闘が続くシリアから、戦火を逃れて国外に避難する難民の人びとや国内に留まり食糧の入手が困難になっている人びとに対して、命綱となる食糧を届けました。また、西アフリカのサヘル地域を大干ばつが襲い、食糧価格の高騰や内戦等もあいまって1,000万人以上が飢餓に陥りました。その被害は非常に広範囲に及び、ニジェール、チャド、マリ、セネガル、モーリタニア、ブルキナファソ、カメルーン等がその影響を受け、国連WFPは、被害を被った国々で緊急食糧支援や栄養強化支援を実施しました。

頻発する自然災害、紛争等の影響で食糧難が起こると、国連WFPは危機に瀕する地域に世界中どこへでも、48時間以内に支援を届けることを使命に活動しています。2012年、国連WFPは80カ国で9,720万人に食糧支援を行いました。皆様からの、飢餓撲滅に向けての温かいご支援に対し、心より厚く御礼申し上げます。今回は皆様のご協力のもと、2012年に国連WFPが実施しました支援内容につき、本書を通じてご報告させていただきます。

私は、2012年4月、その前年に食糧危機が発生したアフリカ東部の「アフリカの角」地域にあるエチオピアとケニアを訪問しました。国連WFPが約30万人の難民を支援するエチオピアでは、ブラミノ難民キャンプでの支援を視察し、キャンプ内の学校では子どもが、給食として出される温かいおかゆを食べて学ぶ姿を見て、支援が活かされていることを確認しました。ケニアの北西部トゥルカナ地域の小学校を訪れた際には、校長先生より「日本からの支援による国連WFPの学校給食のおかげで出席率が60パーセント改善した。」と感謝の言葉を頂戴しました。「確かに届ける、国連WFP」私たちは支援物資を確実に届けるとともに、明日への希望も届けています。

全ての人びとに十分な食糧を確保するには、世界中の人が助け合わなければなりません。これからも、皆様と力を合わせて、世界で最も大きな課題の一つである、飢餓問題の解決に向かって前進していきたいと願っています。尊いお力添えに重ねて感謝申し上げますとともに、どうぞ今後とも、国連WFPへの深いご理解とご支援をよろしくお願いいたします。



特定非営利活動法人
国連WFP協会

会長 安藤宏基

2012年を振り返って

シリア 緊急食糧支援



©WFP/Abeer Etefa

シリアでは内戦状態の悪化を受け、国内各地および周辺の国々へ逃れる人びとが急増しました。国連WFPは即座に緊急支援を拡大させ、12月にはシリア各地へ避難した130万人近くの人びと、そして周辺4カ国(ヨルダン、レバノン、イラク、トルコ)に逃れた25万人近くの難民に食糧や食糧引換券を配給しました。

サヘル地域 緊急食糧支援



©WFP/Rein Skallerud

西アフリカのサハラ砂漠南縁に広がるサヘル地域で、干ばつや紛争により、多くの人びとが飢餓にさらされました。国連WFPは同地域8カ国の被災地域で緊急食糧支援や母子栄養支援を行い、特に6月から9月の食糧備蓄が最も減る時期には、毎月500万から600万人の人びとに支援を届けました。

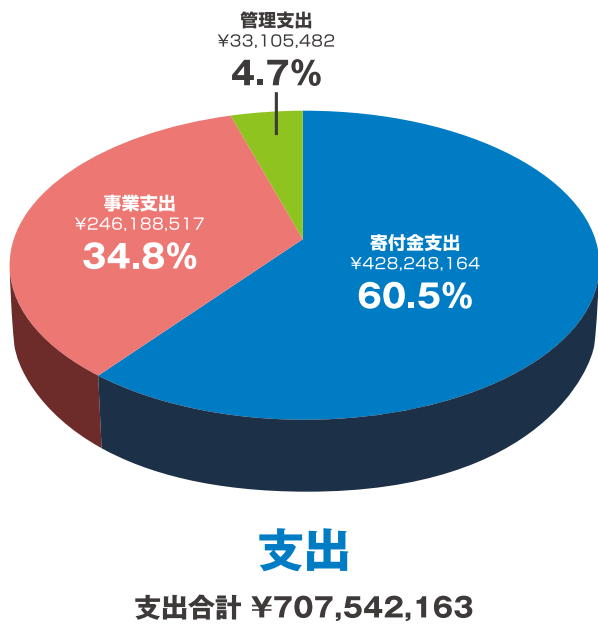
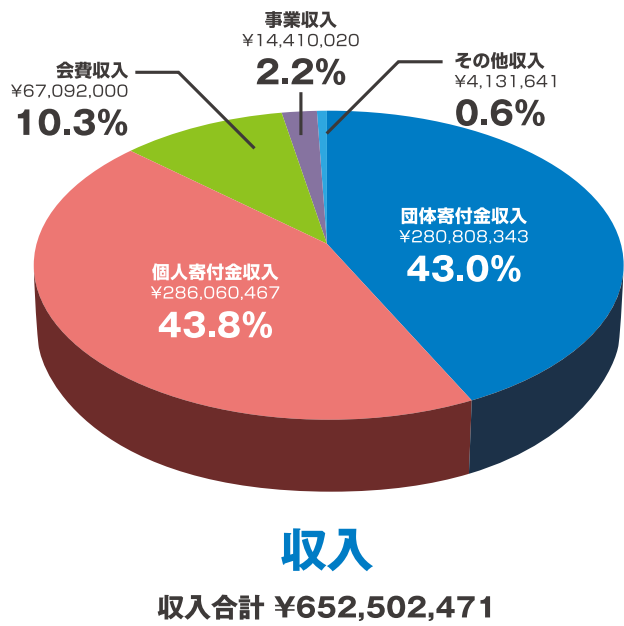
会計報告

日頃より、国連WFPの活動をご支援いただき、誠にありがとうございます。2012年度(2012年1月～12月)に国連WFP協会に寄せられた企業・団体、個人の皆様からの現金でのご寄付は、合計で5億6,686万8,810円となり、多大なご支援を賜ることができました。改めてご協力に感謝申し上げるとともに、引き続き国連WFPへのご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

注)ご寄付の75%以上は国連WFPローマ本部に送金され、途上国での支援活動に活用されています。ご寄付の25%(上限)は、国内での募金活動、広報宣伝費、管理費等の運営経費に充てています。

2012年度収支

会費収入・事業収入・その他収入と寄付金収入の一部は、国連WFP協会が国内で行う諸活動の経費に充てられます。



情報公開と監査報告

国連WFP協会は、法人の監事が内部監査を行うとともに、監査法人に依頼して外部監査を受けています。活動報告書や決算報告書は、監督官庁である横浜市や国税庁に提出され、またウェブサイトにも掲載されています。

www.wfp.org/jp

2012年度 決算報告

活動計算書

2012年 1月 1日から2012年12月31日まで

科目			金額 (単位:円)
Ⅰ経常収益			
1 受取会費		評議会費 賛助会費団体 賛助会費一般 賛助会費学生	63,100,000 950,000 2,990,000 52,000
小計			67,092,000
2 事業収益	(1) 普及啓発事業	送料負担 謝金・講演料 ハンガーマップ	12,460 67,560 87,400
小計			167,420
	(2) 協力事業	協賛金 参加・出展料	12,800,000 1,442,600
小計			14,242,600
3 受取寄付金		一般	566,868,810
小計			566,868,810
4 その他収益		受取利息 雑収入 受取配当金	2,787 106 4,128,748
小計			4,131,641
経常収益計			652,502,471
Ⅱ経常費用			
1 事業費	(1) 人件費	給料手当 法定福利費 委託費 福利厚生費	57,072,713 8,864,441 91,370,750 132,727
人件費計			157,440,631
	(2) その他経費	会議費 接待交際費 旅費交通費 通信運搬費 消耗品費 印刷製本費 支払手数料 宣伝広告費 協力事業費 租税公課 保守料 新聞図書費 求人研修費 雑費 寄付金支出	56,428 30,900 4,835,593 1,964,488 304,650 28,358,543 4,667,146 41,168,507 5,272,395 23,900 1,586,840 42,371 420,000 16,125 428,248,164
その他経費計			516,996,050
事業費計			674,436,681
2 管理費	(1) 人件費	給料手当 法定福利費 委託費 福利厚生費	15,658,818 2,223,864 2,830,795 35,707
人件費計			20,749,184
	(2) その他経費	会議費 旅費交通費 通信運搬費 消耗品費 印刷製本費 賃借料 支払手数料 保険料 諸報酬料 租税公課 新聞図書費 求人研修費 雑費 保守料 商標権減価償却額 什器品減価償却額 ソフトウェア減価償却額	324,230 810,640 2,758,420 2,158,893 198,450 16,128 488,419 86,560 2,503,053 513,800 134,588 346,500 225,629 442,050 51,989 699,298 597,651
その他経費計			12,356,298
管理費計			33,105,482
経常費用計			707,542,163
当期正味財産増減額			△55,039,692
前期繰越正味財産額			307,252,571
次期繰越正味財産額			252,212,879

貸借対照表

2012年12月31日現在

科目		金額 (単位:円)	
I 資産の部			
1 流動資金	現金預金	288,946,602	
	前払金	551,695	
	未収金	100,760	
流動資産合計		289,599,057	
2 固定資産	(1) 有形固定資産	什器備品	2,342,273
有形固定資産合計		2,342,273	
	(2) 無形固定資産	商標権	727,851
		ソフトウェア	2,445,477
無形固定資産合計		3,173,328	
	(3) 投資その他の資産	投資有価証券	39,699,500
投資その他の資産合計		39,699,500	
固定資産合計		45,215,101	
資産合計		334,814,158	
II 負債の部			
1 流動負債	未払金	78,352,277	
	前受金	3,176,262	
	預り金	597,140	
	未払消費税等	475,600	
流動負債合計		82,601,279	
負債合計		82,601,279	
III 正味財産の部			
	前期繰越正味財産	307,252,571	
	当期正味財産増減額	△55,039,692	
正味財産合計		252,212,879	
負債及び正味財産合計		334,814,158	

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

財務諸表の作成は、NPO法人会計基準(2010年7月20日 2011年11月20日一部改正NPO法人会計基準協議会)によっています。

- 固定資産の減価償却の方法
定額法による減価償却を実施し、直接法で表示しています。
- 有価証券の評価基準及び評価方法
その他の有価証券
時価のないもの…移動平均法による原価法によっております。
- 消費税等の会計処理
消費税等の会計処理は税込経理方式によっています。

2. 固定資産の増減内訳

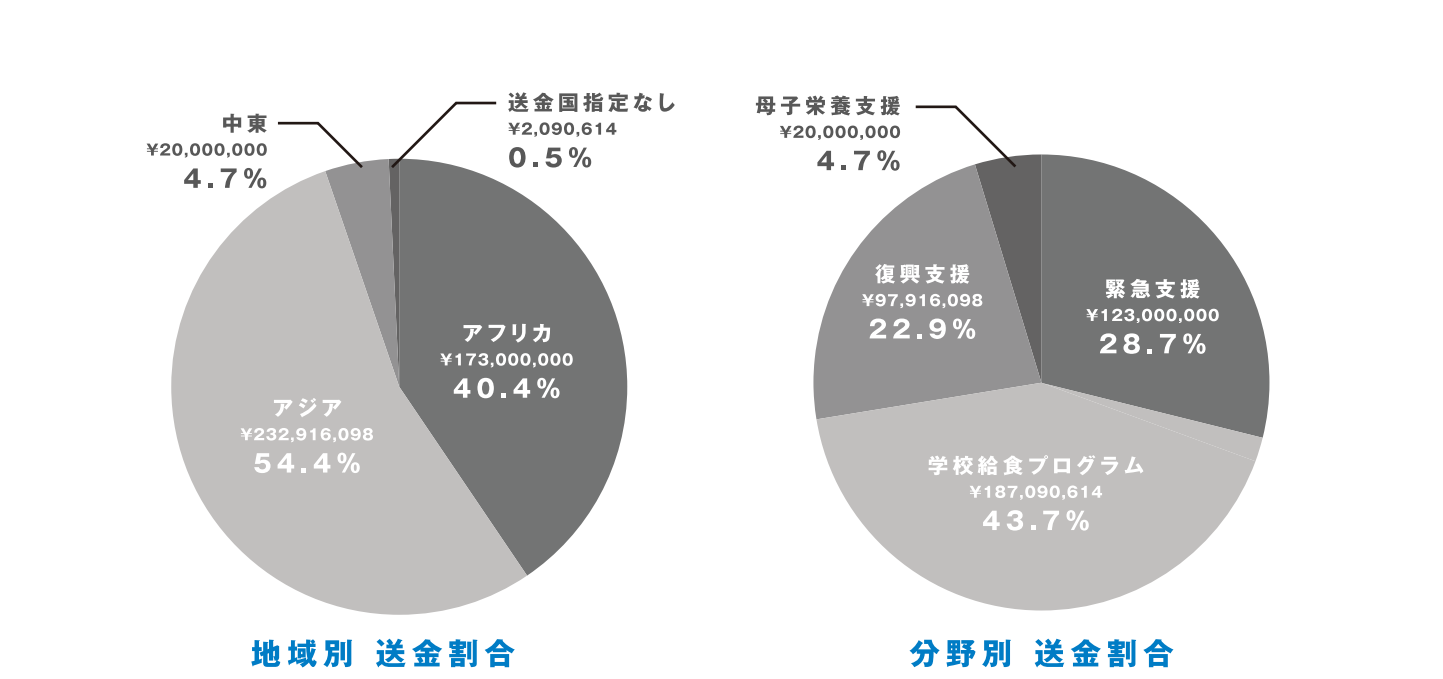
(単位:円)

科目	什器備品	商標権	ソフトウェア	合計
期首取得価額	3,850,328	-	2,558,587	6,408,915
増加	-	779,840	1,399,125	2,178,965
減少	-	-	-	-
期末取得価額	3,850,328	779,840	3,957,712	8,587,880
減価償却累計額	1,508,055	51,989	1,512,235	3,072,279
期末帳簿価額	2,342,273	727,851	2,445,477	5,515,601

ご寄付の使途レポート

2012年の1月から12月の間に、皆様からいただいた寄付金の合計は5億6,686万8,810円でした。そのうち4億2,800万6,712円の送金を実施しました。その使途および送金先の状況についてご報告します。各支援活動の内容は、次ページ以降をご覧ください。

		金額（単位:円）
アフリカ		
「サヘル」地域	緊急支援	63,000,000
エチオピア	学校給食プログラム	30,000,000
ケニア	学校給食プログラム	30,000,000
セネガル	学校給食プログラム	20,000,000
タンザニア	学校給食プログラム	20,000,000
ルワンダ	復興支援（難民および帰還民への食糧支援）	10,000,000
アジア		
スリランカ	学校給食プログラム	20,000,000
スリランカ	復興支援（旧内戦地における支援）	17,916,098
タジキスタン	復興支援（環境保全のための植林プロジェクト）	10,000,000
ネパール	母子栄養支援	10,000,000
パキスタン	学校給食プログラム	20,000,000
バングラデシュ	学校給食プログラム	25,000,000
バングラデシュ	復興支援（ミャンマー難民への支援）	60,000,000
東ティモール	母子栄養支援	10,000,000
フィリピン	緊急支援（台風被災者への緊急食糧支援）	40,000,000
ブータン	学校給食プログラム	10,000,000
ミャンマー	学校給食プログラム	10,000,000
中東		
シリア	緊急支援	20,000,000
送金国指定なし	学校給食プログラム	2,090,614
総計		428,006,712



注)ご寄付の75%以上は国連WFPローマ本部に送金され、途上国での支援活動に活用されています。ご寄付の25%(上限)は、国内での募金活動、広報宣伝費、管理費等の運営経費に充てています。

サヘル地域 緊急支援

西アフリカのサハラ砂漠南縁に広がるサヘル地域において、干ばつ、紛争、食糧価格高騰等の影響により食糧危機が発生し、1,000万人以上が飢餓にさらされました。マリでは、国内の政情不安も食糧危機の一因となりました。そうした中、国連WFPは被害を受けた国々で人びとの命を守るための食糧支援を実施しました。特に、6月から9月にかけての備蓄食糧が最も減少する時期には毎月500万から600万人に支援を届けました。また、状況が極めて深刻な地域の5歳未満の子ども、妊婦および授乳中の母親を対象に栄養不良の改善と予防のための栄養強化支援を行いました。国連WFPが各国で実施した活動の一例を以下よりご確認ください。

カメルーン

毎月223,809人を対象に、穀物、豆類、栄養強化した植物油、塩等を配給しました。更に、母子の栄養不良改善や防止のため、乳幼児には栄養強化食品を、妊婦と授乳中の母親には栄養価の高い「スーパーシリアル」と呼ばれるトウモロコシと大豆のブレンド粉にビタミンやミネラルを加えたもの、砂糖、栄養強化を施した植物油を配給しました。支援を受けた人数は、6～23カ月の乳幼児14,040人、24～59カ月の幼児22,284人、妊婦や授乳中の女性23,763人に上りました。

ガンビア

ガンビアでは、農作物の作柄不良の割合が70%を超えた地区の最も脆弱な人びと193,765人を対象に、米や植物油等を提供しました。また子どもたちの急性栄養不良や死亡を防ぐため、6～23カ月の乳幼児16,030人、24～59カ月の幼児21,019人に「スーパーシリアル」と植物油を支給しました。

セネガル

4～10月の備蓄食糧が最も減る時期に主に穀物を配給し、また追加で豆類、油、塩を提供することもありました。市場が機能している都市周辺部の地域では食糧引換券を支給し、人びとはそれと引き替えに地元の商店で米やアワ、トウモロコシ、油、塩、砂糖等を入手しました。また192,956人の子どもを対象に学校給食支援を行い、小学生には毎日穀物150g、豆類40g、油15g、塩4gで作られた昼食を提供したほか、「スーパーシリアル」80gで作られた朝食を週2回提供しました。未就学児には穀物80g、豆類20g、油10g、塩3gで作られた昼食を毎日提供しました。

チャド

チャドの国民に穀物や豆類、油、塩を、また、スーダンおよび中央アフリカ共和国からの難民に穀物、トウモロコシと大豆の混合粉、豆類、植物油、砂糖、塩を配給しました。母子栄養支援も行い、5歳未満の中程度の栄養不良の子どもにはビーナツペースト状の栄養強化食品等を、妊婦や授乳中の母親には砂糖入りの「スーパーシリアル」や植物油を配給しました。更に支援対象地域の6～23カ月の乳幼児や6カ月未満の子をもつ母親全てを対象に栄養不良の予防を目的に「スーパーシリアルプラス」（「スーパーシリアル」にスキムミルク、砂糖、油が追加された栄養強化食品）等を配給しました。

ニジェール

緊急支援として、2,774,722人（難民31,554人を含む）に穀物や豆類、油、もしくは食糧購入用の現金支給を行いました。また、乳幼児772,193人に急性栄養不良を予防するため、毎月「スーパーシリアルプラス」を配給しました。更に、6カ月未満の幼児を抱える母親240,985人を対象に毎月「スーパーシリアル」と植物油を配給しました。また、459,698世帯を対象に、地域の自立支援を実施。保水設備等、生活基盤の建設・修理に参加した人に、労働の報酬として食糧または現金（月65米ドル）を支給しました。

ブルキナファソ

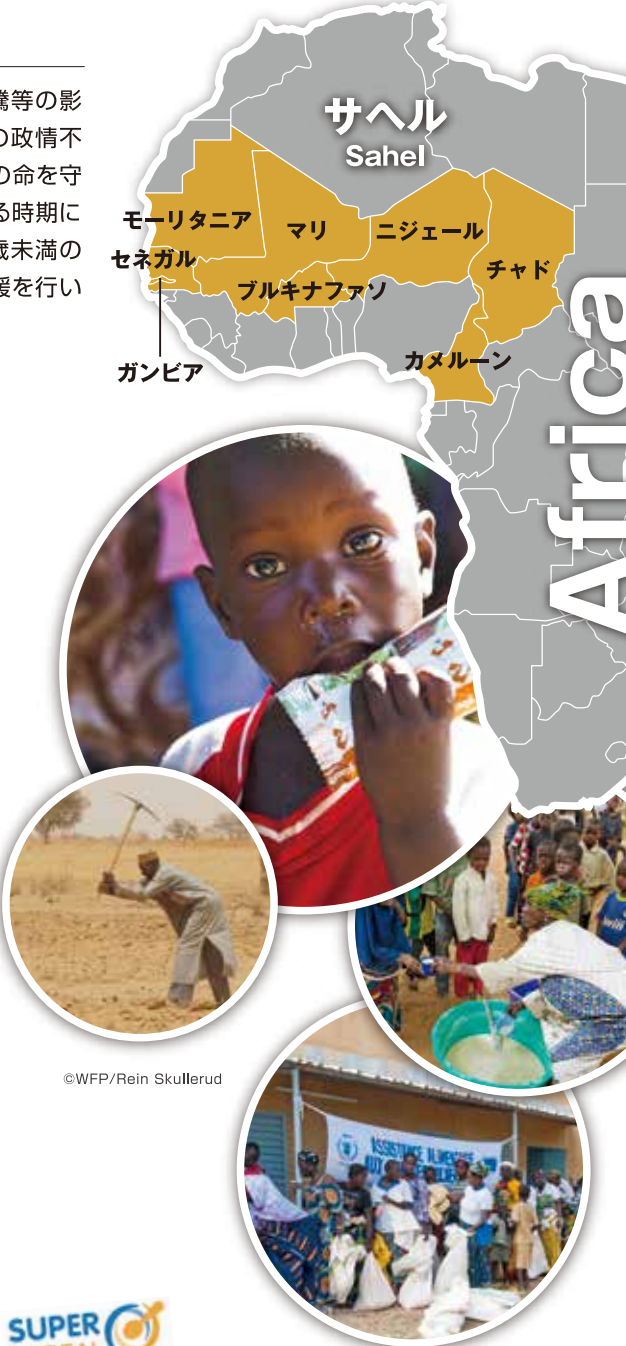
備蓄食糧が減少する4カ月間、最も深刻な被害を受けた10の地域で食糧支援を実施し、3つの地域で毎月、穀物、豆類、植物油を支給、7つの地域では1世帯につき1カ月あたり24米ドル相当の現金を支給しました。また、急性栄養不良に陥った乳幼児216,000人に栄養強化食品を、栄養不良の妊婦および授乳中の女性66,700人に砂糖入りの「スーパーシリアル」、油を配給しました。

モーリタニア

急性栄養不良の度合いが15%超の2つの地域（ゴルゴル州、ブラクナ州）で、中程度の急性栄養不良の乳幼児38,752人と、妊婦および授乳中の女性12,232人を対象に、「スーパーシリアル」250g、砂糖20g、油25gを90日間提供しました。またゴルゴル州では6～23カ月の乳幼児すべてを対象に、栄養強化食品46gを120日間配給しました。

マリ

マリ北部での紛争を受けて、国内および周辺国へ逃れた人びとへの緊急支援を実施しました。マリでは、国内避難民110,461人に、穀物、豆類、植物油、塩、「スーパーシリアル」等を配給しました。また、乳幼児15,969人を対象に「スーパーシリアルプラス」を配給しました。ブルキナファソでは、マリからの難民37,626人に、穀物や豆類、植物油、塩、「スーパーシリアル」を配給しました。モーリタニアのムバラ難民キャンプでは、乳幼児2,900人に「スーパーシリアル」200g（砂糖を含む）と油20gを毎月配給しました。ニジェールでは乳幼児10,500人に、「スーパーシリアル」または「スーパーシリアルプラス」を提供しました。



ニジェールのお母さんから聞くご支援の成果

ニジェールの小さな村、アッサカラムは、首都ニアメから北東に1,000キロ余り遠く離れたところにあります。住民は、農業に適しているとは言えないような乾燥した土地で作物を育て、かろうじて日々の食糧を得ています。「残っている食べ物はこれだけ」とこの村の母親・ナナさんは、一握りのトウモロコシを見て言います。しかしそのような状況が続いたある日、ナナさんは、国連WFPから「スーパーシリアル」の提供を受けることができました。彼女の暮らす地域で、2歳未満の子どもと授乳中の母親がいる家庭に対する支援が実施されたのです。「これを食べると母乳の出がとていいの。」とナナさんは言います。ナナさんは、「スーパーシリアル」を毎日食べ続けることが、子どもの健康を守るうえで重要だと強く感じています。

シリア 緊急支援

2011年10月に国連WFPが緊急支援を開始した際、シリア国内の食糧支援の対象者は5万人でした。しかし戦闘の激化を受け、2012年初めには10万人、5月には50万人、10月末には150万人にまでその数は膨れ上がりました。戦闘が激しい地域では食糧価格が2倍になったところもあると報告され、現地の人びとの生活は更に困窮しました。

国連WFPは現地の支援団体であるシリア・アラブ赤新月社と協力し、国内各地に避難した人びとに対して緊急食糧支援を実施しました。主な支援対象者は、家を失った世帯、一家の稼ぎ手を亡くす等主な収入源を失った世帯、避難民を受け入れている世帯、女性世帯主世帯、保護者を失った子どもたち等です。また包囲された地域で食糧不足に直面する人たちも、支援の対象となりました。食糧支援の内容は、1日に必要



©WFP / Abeer Etefa

とされるカロリーの3分の2を補うことを目的としており、穀物、油、砂糖、肉の缶詰、豆類からなる支援食糧が、各世帯に月単位で提供されました。また国連WFPは、戦闘を逃れるためシリアからヨルダン、レバノン、トルコ、イラクへ避難したシリア難民への支援も実施しました。難民キャンプに到着したばかりの人には温かい食事とパンを提供し、キャンプに居を構えた人には穀物や豆等を配給しました。また、都市部の親戚や知り合いの家に身を寄せている人びとに対しては、特定の商店で利用できる食糧引換券を配りました。この券で通常の食糧支援では配られない卵や乳製品等の生鮮食品を手に入れることができ、また避難先の地元経済の活性化にもなります。皆様のご支援は、シリア国内での緊急食糧支援に役立てられています。

エチオピア 学校給食プログラム

2011年の調査によると、エチオピアの子どもは栄養不良のため44%が年齢の割に低身長で、29%が低体重の状態です。2012年3月以降、雨不足による不作、物価の高騰が続いたことから食糧不足が悪化し、400万人近くの人びとへの緊急食糧支援が必要となりました。国連WFPは食糧不足が深刻な地域で、特に女子児童を中心に出席率や就学率の向上を目指して学校給食支援を行い、トウモロコシと大豆の混合粉、植物油、塩で作られた温かい食事を37校の約4万の生徒に毎日提供しました。また遊牧地域では、既定の出席率を達成した女子児童に植物油を配給し家庭に持ち帰らせました。その結果、2012年、国連WFPが支援した学校では出席率が上昇し、中退率は減少を続けています。また同国は、近隣諸国から約38万人の難民を受け入れています。国連WFPは、17の難民キャンプおよび4カ所の施設で暮らすソマリアやエリトリア、スーダン、ケニアからの難民にも食糧支援を行っており、キャンプ内の小学校と幼稚園でも給食を提供しました。



©JAWFP

ケニア 学校給食プログラム



©WFP / Rein Skullerud

ケニアにおける就学率の全国平均は87%ですが、特に干ばつが周期的に発生する乾燥・半乾燥地域や、ナイロビの貧困地域等における就学率は非常に低くなっています。国連WFPは脆弱な地域の子どもを支えるために学校給食プログラムを実施しており、昼食時に穀物や豆類、油、塩で調理された温かい給食を提供しました。更に5歳未満の子どもには午前中に幼稚園で「スーパーシリアル」で作ったお粥を配給しました。また現在ケニアでは、50万人を超える難民がカクマ難民キャンプおよびダダーブ難民キャンプで避難生活を送っています。国連WFPは、難民キャンプの小学校でも学校給食プログラムを実施しました。

セネガル 学校給食プログラム



©JAWFP

セネガルでは、人口の約半数が食糧や健康、教育、住まい等生活の基本的なニーズを満たせずにおり、農村部における貧困状況がとりわけ深刻です。また2011年は降雨が不規則だったため2011～2012年は作物収穫量の減少や食糧価格の高騰が見られ、特に貧困地域の多くの人びとが食糧不足に見舞われました。このような中、国連WFPは就学率および修了率が低い地域の小学校および未就学児の子どもの栄養状態を改善するとともに教育の機会を広げるため、学校給食支援を実施しました。小学校児童には穀物150g、豆類40g、植物油15g、ヨード塩4gで調理された給食を毎日、「スーパーシリアル」80gで作られた朝食を週2回、また未就学児には穀物80g、豆類20g、油10g、塩3gで作られた昼食を毎日、配給しました。また国連WFPは、近い将来セネガル政府が独自で学校給食を実施していけるよう、政府関係者を対象に学校給食支援に関する研修や機材、技術を提供し、更に地元産の食材を活用していけるようにするための試験プロジェクトを開始しました。

タンザニア 学校給食プログラム

タンザニアは依然として、サハラ砂漠以南のアフリカの中で慢性的な栄養不良に苦しむ人の割合が最も高い国の一つです。国連WFPは学校給食プログラムを通じて食糧不足が長期に及ぶ地域の人びとを支援しています。中でも、就学率や出席率が低く中退率が高い国内5地域で給食を配給しました。給食は1日2食で、午前中は温かいお粥、昼はトウモロコシや豆類に植物油を加えて作った食事が提供されました。本支援により、学校に通う子どもが増え、中退する子どもも減少しました。また国連WFPは、地域自治体職員等の能力開発を後押しし、地域の参加を促しながら活動を行いました。



©Mayumi.R

ルワンダ 復興支援（難民および帰還民への食糧支援）



©WFP/John Paul Sesonga

ルワンダでは、6万7,000人のコンゴ難民が難民キャンプ等5カ所に居住しています。一方、ルワンダ周辺のコンゴ民主共和国やウガンダ等には約7万人のルワンダ人難民または庇護希望者が暮らしています。国連WFPは、4カ所の難民キャンプで、コンゴ難民に必要なカロリー量を満たせる分だけの穀物や豆類、油、塩等を毎日配給しました。更に、難民キャンプ内でも最も脆弱な立場である5歳未満の子ども、妊婦と授乳中の母親、HIV陽性者、抗レトロウイルス療法治療中の患者等を対象に「スーパーシリアル」、植物油と砂糖を追加提供しました。更に、難民の子どもたちが通うキャンプ内および近隣の小学校で、学校給食支援を実施しました。周辺国からルワンダへ戻ってきたルワンダ人に対しては、穀物や豆類、油等の食糧3カ月分を支給しました。

スリランカ 学校給食プログラム / 復興支援（旧内戦地における支援）

スリランカは今もなお、内戦の後遺症からの回復途上にあります。微量栄養素は身体と知能の発育不全を予防する上で最も重要な要素ですが、この欠乏症の割合が依然として高い状態にあります。そのような中、国連WFPは学校給食プログラムを通して、内戦の被害に遭った人びとが多く暮らす北部の小学校児童16万人を支援しています。皆様のご寄付は940以上の学校における毎日の給食に役立てられ、1年生から9年生までの子どもたちの出席率向上を助けています。皆様のご支援は、内戦の避難先から北部5県に帰還する人びとへの食糧支援にも役立てられています。



©WFP/Hamish Appleby

タジキスタン 復興支援(環境保全のための植林プロジェクト)

国連WFPはタジキスタンで、フード・フォー・ワーク(労働の対価としての食糧支援)を通じて植林活動を実施しています。本取り組みは、植林活動に参加することを条件に地域の住民に食糧を提供するもので、食糧不足を改善し、地域の自立を促すことを目指しています。皆様からのご支援で、東部の山岳地帯にあるラシュト地方の60の小学校に計3万本のあんず、りんご、ポプラの苗木を提供しました。学校での植林活動には360世帯の貧しい家庭が参加し、タジキスタン政府から派遣された職員2名が活動の指導を行いました。これまでに延べ40トンの食糧を活動参加者とその家族1,800人に配給しています。本活動には1万2,000人の生徒が参加しており、植林に携わることで環境保全の大切さを学んでいます。なお近い将来、植えられた木に実が実るようになれば、この果実は子どもたちの食用となるほか、それを売って収入を得た際には、その収入は子どもたちの食糧不足を解消するため等に用いられます。



ネパール 母子栄養支援



ネパールは、未だに世界で最も貧しく、低開発の国の一つです。不安定な政情に加え、低い経済成長、物価高、自然災害等の影響で、国民の4人に1人が1日60円足らずで暮らしています。栄養不良の割合が高く、国民の15%は食糧不足に苦しみ、5歳未満の子どもの41%は年齢の割に低身長で、29%が低体重です。そのような中、国連WFPは、妊婦や授乳中の母親、その2歳未満の子どもの栄養状態を改善するため母子栄養支援を行っており、保健センターやクリニック等を通じて栄養強化食品を配給しています。

パキスタン 学校給食プログラム

2007年以降、パキスタンの主食となる食品の価格は平均で80%も高騰しているにもかかわらず、それに見合った賃金の値上げも無く、収入のおよそ49%が食糧購入に充てられています。貧困家庭では、その割合は60%にも上ります。国全体では約1億400万人(人口の58%)が食糧不足に陥っているといわれています。国内の急性栄養失調の割合はWHO(世界保健機関)が「危機的」と定める15%を超えています。栄養不良に陥った子どもたちは知能の発達が遅れる等、回復が難しい症状に長い間苦しめられるリスクが高くなります。最近実施された調査で、パキスタンの識字率に改善の兆しは見られず、子どもの小学校入学率は依然として低いままであるという結果が出ました。そのような中、国連WFPは北西部のアフガニスタンとの国境地域の学校で、定期的に授業に出席した生徒に、2カ月に1回、植物油を配給しています。また、子どもたちの一時的空腹の解消、及び集中力、学習意欲の向上のために栄養強化ビスケットの配給も行っています。



バングラデシュ

●学校給食プログラム

バングラデシュでは初等教育における男女間の教育格差と就学率の状況が改善されてきていますが、特に貧しい家庭の子どもの中退が依然として大きな問題になっています。推定350万人の子ども(うち160万人は女子)が学校に通っておらず、入学できても初等教育の5年間で修了できるのは2人に1人という状況です。国連WFPは、未就学児および小学校児童の就学率や出席率の向上、そして中退率や微量栄養素欠乏症の改善を目指し、給食として栄養強化ビスケットを提供しました。

●復興支援(ミャンマー難民への支援)

バングラデシュはミャンマーから難民を受け入れており、世界でも最も長期間にわたり難民が滞在する国の一つです。国連WFPは、ミャンマー・ラカイン州北部から逃れてきた難民の栄養状態や食糧不足を改善するための支援を継続してきました。難民の移動や就業は政府によって規制されているため、ほとんどの人に定収入がなく、食糧支援に大きく依存しています。政府によって登録された全ての難民に、米、豆類、「スーパーシリアル」、植物油、砂糖、塩を、2週間に1回配りました。また、母子の栄養不良の予防や改善のため、全ての妊婦や授乳中の母親、6～23カ月の乳幼児、そして中程度の急性栄養不良と診断された6～59カ月の乳幼児を対象に、「スーパーシリアル」、油、砂糖を追加で提供しました。12月には、難民キャンプの子どもたちに「スーパーシリアルプラス」を配給しました。また、難民の子どもたちや若者の教育機会を拡大するため、小学校や幼稚園、そして識字教育のための学校に通う子どもや青年の生徒を対象に、1人1日につき50gの栄養強化ビスケットを支給しました。



東ティモール 母子栄養支援

人口100万あまりの東ティモールでは、国民の約半数が1日88円以下の非常に貧しい生活を余儀なくされており、多くの国民が食糧不足と栄養不良に苦しんでいます。そのような中、国連WFPは母子栄養支援を実施しており、6～23カ月の乳幼児全員、中程度の急性栄養不良と診断された24～59カ月の幼児、そして妊娠中および授乳中の女性を対象に、国内で作られた「Timor-Vita」という栄養強化食品もしくは、「スーパーシリアル」と植物油を提供しました。また保健施設において本支援の実施に尽力したボランティアを対象に米が配給されました。なお国連WFPは「Timor-Vita」の製造にあたり、品質管理、製造技術、サプライチェーン・マネジメント、機械設備のメンテナンス等の技術支援も行っています。

フィリピン 緊急支援(台風被災者への緊急食糧支援)



2012年12月4日、台風24号(別名ポーファ)がフィリピンを襲い、特にミンダナオ島東部が深刻な被害を受けました。この台風では620万人が被災、死者は1,146人、行方不明者数は834人にのぼりました(2013年2月時点)。国連WFPはフィリピン政府の支援要請を受けて緊急支援を開始し、12月10日までに14万2,500人を対象に米や栄養強化ビスケットを、そして2万6,000人の子どもを対象に栄養強化食品を提供しました。その後も国連WFPは地方自治体と連携して支援を継続し、被災地の40万人を対象に米等の配給を実施しました。また260校の7万9,000人の児童を対象に緊急支援の一環として学校給食支援を実施し、子どもたちは米や豆、野菜等で調理された温かい食事を取ることができました。更に国連WFPは生後6～59カ月の乳幼児を対象とした栄養強化支援を行い、ピーナツペースト状の栄養強化食品等を配給しました。他にも、被災地インフラ復旧や生活再建のため、瓦礫の除去や道の整備、稲作や野菜作り等の自立支援を実施。参加者に対して報酬として食糧や現金を支給しました。

ブータン 学校給食プログラム

ブータンの国民の多くは、道路が未整備の山あいの農村で生活しています。子どもたちは何時間も山道を歩いて通学しなくてはならず、それが農村部における初等教育の普及を妨げています。このような状況に対し国連WFPは、遠隔地にある227の学校で、児童約3万7,000人を対象に給食を提供しており、皆様からのご支援も同支援に役立てられました。給食は朝と昼の2回提供されており、1日に必要なカロリーの60%以上を摂取できるよう調整された食事が提供されました。また、家の近くに学校がなく寮で生活している子どもには、夕食も提供しました。継続的な支援により、子どもたちは毎日学校に通い、健全に成長し、集中力も高まり、スポーツ等勉強以外の活動等もできるようになっています。中には、通学に3時間近くかかる子どももいますが、90%以上の出席率が保たれています。なお、2019年より国連WFPの支援が無くても、政府が給食支援を実施できるように政府機関の能力強化・人材育成にも注力しています。



ミャンマー 学校給食プログラム

ミャンマーでは人口の25%が貧困に苦しんでいます。都市と農村の経済格差も大きく、貧困層の85%は農村部に住む人びとで占められます。近年教育の面では改善が見られますが、依然として中退率が高いのが問題です。対立する住民間の衝突も続いており、直近では2012年6月と10月に西部のラカイン州で発生した衝突が広範囲の被害を及ぼし、11万人以上の人びとが国内避難民として人道支援を受ける事態が発生しました。そのような中、国連WFPは2012年に、子どもの就学率や修了率を改善するため、ラカイン州等の子ども約11万5,000人を対象に持ち帰りの米を提供しました。本支援により、親は子どもたちが学校に通うことを積極的に奨励するようになりました。更にいくつかの学校では、子どもの空腹を解消し学習能力を向上させるため、日中の軽食として7,400人の児童を対象とした栄養強化ビスケットの提供を開始しました。

企業・団体の皆様からのご支援

2012年度、国連WFPは多くの企業・団体の皆様からご寄付、及び、専門分野における商品やサービスをご提供いただきました。そして、638の企業・団体の皆様に国連WFP協会の評議員として日々の活動を支援していただきました。皆様からのご支援があるからこそ、国連WFPは最も必要とされる人びとに食糧を届けることができます。皆様のご厚志に感謝申し上げます。

2012年度、100万円以上のご支援をいただいた企業・団体の皆様

(順不同)

株式会社ファミリーマート	日立健康保険組合
日清食品ホールディングス株式会社	宗教法人真如苑
株式会社高島屋	三菱UFJニコス株式会社
日清食品株式会社	宗教法人松緑神道大和山
株式会社明光ネットワークジャパン	宗教法人無二亦寺
立正佼成会 一食平和基金	株式会社日清製粉グループ本社
株式会社静鉄ストア	伊藤忠商事株式会社
株式会社カスミ	シティグループ・ジャパン・ホールディングス株式会社
株式会社カネカ	有楽製菓株式会社
株式会社三菱東京UFJ銀行	プリマハム株式会社
三菱東京UFJ銀行社会貢献基金	キッコーマン株式会社
ソフトバンクモバイル株式会社	株式会社ディノス
公益社団法人日本プロゴルフ協会	株式会社オリエントコーポレーション
三菱商事株式会社	株式会社日本食糧新聞社
社団法人日本フードサービス協会	アルフレッサ ホールディングス株式会社
ブルーチップ株式会社	ユニー株式会社
日本ケンタッキー・フライド・チキン株式会社	立正佼成会 佐倉教会
株式会社朝日ネット	株式会社河本総合防災
特定非営利活動法人TABLE FOR TWO International	武田薬品工業株式会社
アイ・ティー・シーネットワーク株式会社	丸善石油化学株式会社
株式会社日本アクセス	株式会社セブン&アイ・フードシステムズ
三井住友カード株式会社	伊藤忠食品株式会社
リンベル株式会社	スチール缶リサイクル協会
国連WFP協会なごや	丸中製菓株式会社
株式会社クレディセゾン	シオノギ社会貢献支援会

*このほかにも多くの企業・団体の皆様にご支援を頂戴しております。厚く御礼申し上げます。

レッドカップキャンペーンでのご支援

国連WFPは、多くの方に飢餓の状況を知ってもらい、一人でも多くの飢餓に苦しむ子どもに学校給食を届けるため、2011年11月よりレッドカップキャンペーンを実施しています。これは、企業の皆様に、赤いカップをモチーフとしたマークをつけた商品を販売し、売上の一部を寄付していただくという取り組みです。キャンペーンサイト、Facebook等で多くの方に賛同・協力いただけるよう、支援を呼びかけています。2012年度は、7社にご協力いただきました。貴重なご支援に感謝申し上げます。



2012年度、ご協力いただいた企業の皆様 (参加順)

企業名	対象商品
 株式会社 明光ネットワークジャパン	明光義塾オリジナル教材
 プリマハム株式会社	直火焼ハンバーグ(4個)デミグラスソース
 日清食品株式会社	日清チキンラーメン(1食・5食入) 日清チキンラーメンどんぶり
 株式会社湖池屋	ポリンキーあっさりコーン ポリンキーお好みソースあじ
 株式会社中村屋	技あり仕込みビーフカレー(中辛、辛口) 中華まん(肉まん6個入り、肉まん・あんまん6個入り)
 キューピー株式会社	「かむかむ赤ちゃん」シリーズ(全7種類) ・すき焼き風煮込み ・たら団子とひじきの煮物 ・チキンのカレーポトフ ・お肉と豆の五目煮 ・具たくさん中華煮込み ・トマト煮込みハンバーグ ・クリーミーハンバーグ
 株式会社ファミリーマート	・FamilyMart collection きつねうどん ・FamilyMart collection 天ぷらそば ・チョコクランベリー ・ホワイトリングハムチーズ

レッドカップキャンペーン専用ウェブサイト

www.redcup.jp

レッドカップキャンペーン Facebook ページ

www.facebook.com/wfp.redcup

支援を広げるための取り組み

多くの皆様に世界の飢餓の問題や国連WFPの活動について知っていただき、支援の輪を広げるための取り組みを2012年も実施いたしました。皆様と力を合わせて、飢餓の解決に向かって前進していきたいと願っています。

ACジャパン支援キャンペーン 「みんなの未来」

国連WFPの学校給食プログラムが、ACジャパンの支援キャンペーンとして選定され、2012年7月1日から2013年6月30日の期間、公共広告がテレビ、ラジオ、新聞、雑誌や交通広告等を通じて全国で展開されました。広告には、2007年よりWFPオフィシャルサポーターを務めるモデルの知花くらさんが起用され、「赤いカップの給食から、子どもたちの未来が広がります。」をキャッチフレーズに、学校給食への支援を呼びかけました。本広告では、子どもに必要な栄養を届け、学ぶことの活力を育み、明るい未来へとつなげていく学校給食の役割と使命をアピールしました。



知花さんのタンザニアの小学校訪問

本広告撮影のために、知花さんはマサイ族の子どもたちが通う、タンザニア東部ロンギド県の小学校を訪問しました。タンザニアは全人口の4割が慢性的な食糧不足で、5歳未満の子どもの42%が低体重、80%が貧血に苦しんでいます。国連WFPは同国16県の1,167校で64万人以上の生徒に給食を届けています。国連WFPはタンザニアで飢餓を緩和させ、また教育が大切なものであるとの理解を地域で浸透させるために給食支援を実施しています。



知花さんからのメッセージ

「栄養で育まれる夢」
国連WFPの学校給食は、食べて学んで、そして子どもたちの将来の夢へとつながっていく活動でもあります。自分の将来の夢について、目をきらきらと輝かせて語る子どもたちが世界中でもっとも増えることを願って。

WFPオフィシャルサポーター 知花くらさん



WFPウォーク・ザ・ワールド

子どもたちの飢餓をなくすためのチャリティー・イベント「WFPウォーク・ザ・ワールド」を5月27日(日)に開催しました。当日は晴天に恵まれ、2,786人が参加してくださいました。ゲストとしてプロフィギュアスケーターの八木沼純子さんに加え、林文子横浜市長もお越しくださり、アーサリン・カズンWFP新事務局長もWFPローマ本部から駆けつけました。本イベントを通じて2,831,989円の寄付金が集まり、学校給食プログラムに活用しました。またイベントの運営は、およそ70名のボランティアの皆様を支えていただきました。参加者の皆様をはじめ、ご協力いただいた全ての皆様に感謝申し上げます。



WFPエッセイコンテスト

「食べる大切さ」をテーマに「WFPエッセイコンテスト2012」を開催し、7月15日から9月28日までの間、小学4年生以上の方を対象に作品を募集しました。国連WFP協会の親善大使の竹下景子さん、WFPオフィシャルサポーターの知花くらさん、WFPオフィシャルサポーターの富永愛さんが特別審査員として協力。全国から6,160通の作品が寄せられ、最優秀賞にあたるWFP賞には、静岡県近藤順子さんの作品「こころの日」が選ばれました。11月9日(金)には表彰式を開催し、審査委員長の湯川れいこさんに講評をいただいたほか、竹下景子さんにWFP賞の作品を会場で朗読していただきました。また、応募1作品につき、給食1日分の30円が特別協賛社から寄付される仕組みを導入し、その結果、184,800円の寄付となり、約6,000人の子どもに給食を提供することができました。



渡辺俊介投手の学校給食支援

千葉ロッテマリーンズの渡辺俊介投手は、2009年シーズンより、1回(イニング)投げるごとに1万円を国連WFPに寄付し、学校給食プログラムを支援してくださっています。2012年は、696,000円(69と3分の2イニング分)をご寄付いただき、これにより、渡辺投手からのご寄付は、2009年以降延べ5,169,000円になります。これは学校給食のおよそ172,300人分に相当します。渡辺選手、いつも温かいご支援をありがとうございます。



役員一覧

会長	安藤 宏基	日清食品ホールディングス株式会社 代表取締役社長・CEO
理事	蟹江 雅彦	元特定非営利活動法人国際連合世界食糧計画WFP協会 専務理事
同	スティーブン・アンダーソン	WFP 国連世界食糧計画 日本事務所 代表
同	本田 亮	クリエイティブディレクター／環境マンガ家
同	松江 勝美	元公益財団法人横浜市国際交流協会 常務理事
同	三代 裕子	総務省 行政相談委員
同	御立 尚資	株式会社ボストン コンサルティング グループ 日本代表
同	横手 仁美	元特定非営利活動法人国際連合世界食糧計画WFP協会 事務局長
監事	樫谷 隆夫	公認会計士・税理士
同	齋藤 史郎	社会福祉法人横浜市社会福祉協議会 顧問

2013年6月29日現在



発行 特定非営利活動法人 国連WFP協会

〒220-0012 横浜市西区みなとみらい1-1-1 パシフィコ横浜 6F

ショクリョウ ハイキュウ
0120-496-819

受付時間 9：00～18：00（年末年始を除く毎日）

※携帯電話・PHSからもつながります。

www.wfp.org/jp